

序

“外科研修中に持ち歩いて参照できる本”が欲しい！

この本の編集を担当するにあたり、外科研修中に持ち歩いてもらえるような特集にしたいと考えました。

そのため、日々の外科研修中に学ぶ機会が多いと思われる項目をリストアップし、それらを、

①外科研修前や術前に“知っておくべきこと”を知るために参照する項目（第1章）

②自分で手技を行うときの予復習のために参照する項目（第2章）

③手術内容を大まかに理解しイメージするために参照する項目（第3章）

と3つに分けてまとめることで、外科研修中に参照するのに必要十分な本になるのではないかと考えました。

第1章. 知っておくべきこと

術前のリスク評価や、他疾患にかかる周術期の注意点、ストーマの管理など、今後どのような進路に進んでも知っておくべき項目で、そして外科研修中の今しかまとめて学ぶことができない項目を解説していただきました。

第2章. できるようになってほしいこと

研修医の先生方にもできるようになってほしい手技、実際に行う機会が多いと思われる手技をわかりやすく解説していただきました。すでにできている手技もあるかもしれません、この機会にもう一度見直して、自分のものにしてください。

第3章. イメージをもってほしいこと

“今何やってんのやろ？全然わからんし、眠いし…”と思いながら手術に入るようなことが少しでも減ってほしいとの思いから、手術全体の大きなイメージが頭に入り、少しでも術中の流れについていくように代表的な手術の流れを解説していただきました。

いずれの項目も、私が尊敬する同志・同僚の先生方、日頃教えをいただいている先生方、私が教えを受けたいとの思いから面識がないなかお願いをした先生方に書いていており、私の編集コンセプトの不備を補って余りある内容になっていると思います。

ぜひ、この本を携えて、充実した外科研修を送っていただければと思っています。

2013年1月

国立病院機構 京都医療センター外科

畠 啓昭